

## 第7回可児市公共施設あり方検討委員会議事進行について（議事録）

日時 平成28年7月27日（月） 午前10時から正午

場所 庁舎4階第4会議室

参加者 委員：生田京子、島田信行、成松誠一、長谷川彰、山口由美子、丹羽千明

事務局：佐藤企画部長、公有財産経営室：渡辺室長、只腰係長、伊藤、正木

### 【次第】

1. 室長挨拶
2. 第6回可児市公共施設あり方検討委員会議事録確認
3. 提言書（案）について

### 【配布資料】（事前配布）

- ・可児市公共施設あり方提言書（案）（事前配布済）

### 室長挨拶（開会）

委員長：議事録の内容について訂正したほうが良い点などがあればお願いします。

事務局：P2の『児童数も20%以上減少するというビジョンになっているため、縮減するという提言になってくる』という部分を『人口ビジョンによると児童数も20%以上減少するという予測になっているため、施設規模も縮減するという提言になってくると思います。』ともう少し分かりやすく表現してはどうかという意見がありましたのでこのように訂正させていただきます。

委員長：他に意見がないようですので、議事録の確認については以上とし、また何かあった場合には事務局に連絡していただくようお願いします。

では、本日の提言書（案）について確認していきますが、まず事務局より校正や内容について説明していただきます。

（事務局より提言書（案）について説明）

委員長：順番に提言書（案）について意見を伺っていきたいと思います。まず第1章について、私からですが、この計画が平成75年までだということが分かっていないと理解できないことが多い内容ですので、1ページ目の『平成75年までの方向性や縮減目標を提言として』の部分の、平成75年を強調していただくと良いかと思います。

委員：基金が必要だということが3ページに書いてありますが、このように基金を積み立てることが現実的に可能でしょうか。

委員長：今までに積立されてきた状況を教えていただきたい。

事務局：現在施設を改修するための基金というものがあります。このシミュレーション通りに積んでいけるかどうかとは別の話となります。提言では、ここまでやらないと無理だということかと思えます。

最近は、歳出歳入の差額が毎年12～13億円程度あり、基金として積み立てている状況です。

委員長：第2章について何か意見があればお願いします。

委員：図書館本館の“文化の拠点づくりと民間活力の導入検討”に『福祉センターに図書館や郷土歴史館などの文化施設を複合しては』とあり、下の可児郷土歴史館には『周辺施設を含めた複合化』とはあるが、こちらにも文化施設を含めた複合を入れたほうが良いのではないか。

委員：アーラの下にある福祉センターに図書館とか郷土歴史館などを複合して文化施設としてアーラも含んでエリア的に一体化する。

委員長：わかりやすい表現にしてもらいたい。

委員：“公民館を複合化の軸”というのは具体的にどういうことかわかりにくい。

事務局：施設を複合するという考えのもと、公民館に例えば消防車庫や高齢者・子供の居場所などを複合して地域の核としてはどうか。いろいろ機能を複合して地域のコミュニティの核にしてはどうかということです。

委員：“公民館をコミュニティの核として位置付ける”としたほうが、分かりやすいのではないか。公民館について見直しされていくのか分からないが、そういった方向性に向かっていると思う。そうなれば地域コミュニティの中心になる。最終的には公民館が地元での指定管理という声が出てくる可能性もある。施設で考えると複合化となるといろんなものを集めるということになるが、あり方としてはコミュニティの核などをタイトルとしたほうが良いのではないか。

委員長：公民館を複合という表現では他の建物と合体するのではないかと誤解を招く恐れがあるので、“公民館をコミュニティの核として位置付ける”としたほうが良いかと思えます。

委員：“地域活力の導入による施設の運営”と公民館のところにありますが、『地域の人たちが主導となり積極的に運営』とありますが、どういったことでしょうか。

委員：それについては、自治連などで検討されています。他の市町村では既にそういったことが導入されていて、方向的にはそちらに向かっている。それには受け皿を作る必要がある。

委員：アーラについてですが、利用料金の見直し効果はありますか。

事務局：利用料金が指定管理者の運営資金にまわっているということであれば、その分の指定管理料は減らす事が可能になるのではないのでしょうか。

委員：料金の値上げは、近隣施設が高いからではなく、運営が圧迫しているから上げたいという理由になると思う。財団への市職員の派遣をやめるなど、人件費を見直すことが必要とならないか。

委員：アーラは全国から見てもこれほど稼働率が高い施設はない。初めからそれを見越して作った施設だから当たり前だといわれればその通り。維持管理していくためには利

用料金の値上げは仕方がないことだと思う。

委員：『ホール等は、1年前からでも予約が…』とありますが、例外はなく予約が入っているのか。

委員：入っています。借りられないことがある。

委員：であるなら、“1年前からでも予約”でなく“1年前から予約が”としたほうがよいのではないかと。これだと入らない場合もあるととる人もいるのではないかと。

委員：“1年前からでも”ではなく“1年前でも”にしてはどうか。

委員：規定はどうなっているのか。予約が1年前からなのか1年前までなのか。

委員：1年前から。

委員長：“1年前から予約が入っていることがあります”にしてはどうか。重要なことは、市民利用の優先ではないかと思いますが、利用料金の見直しと収入増についてはこのまま入れておいても大丈夫でしょうか。

委員：大丈夫です。

委員：消防施設の“公民館との複合化を検討”と書いてあるけど土地はあるのか。

事務局：現在の公民館敷地に治めるといふ形になるかと思えます。操法大会の練習で駐車場を利用していますし、避難所となっており災害時の拠点となります。中恵土公民館が理想ではないでしょうか。

委員長：その他の庁舎施設について、『長寿命化により平成76年以降の建替えとなる施設はありません』という表現はわかりづらいですね。長寿命化にならなくても平成76年以降に建替えということですよ。

事務局：表現を見直します。

委員：保育子育て施設について、まだできていない駅前拠点施設については触れなくてよいのか。

事務局：この委員会は現存している施設について意見をいただくということでした。まだ着工していない施設について意見をいただくことが無理だと考え、外させていただきます。20ページの対象とならない施設に(仮称)駅前拠点施設と書いてあります。

委員：まだできてないから検討しなくてよいのではないかと。

委員長：駅前拠点施設ができることによって現有施設に影響が及びそうなものはありますか。

事務局：駅前拠点ができると児童センターがなくなります。

委員：Lポートの集約は、施設が避難場所になっているのでそこはクリアーしないといけないとは思いますが。

委員：上手に譲渡できれば一番良いと思えます。

委員：市営住宅について、建替えるには現状戸数を確保するなど何らかの基準があるのではないかと。また、低所得者向け住宅としてシフトが大きくなってきている。そういつ

たことを考えてやっていただければ良いかと思います。

委員：集約する市営住宅は、基本的には古い建物についてということですね。

事務局：木造や、地域的に需要が少ない市営住宅となるのではないのでしょうか。

委員：アパートが増えていて家賃も下がってきていて、市営住宅と差がそんなにないところもあるのではないか。

委員：生活保護の人やシングルマザーなど収入が少ない人は市営住宅を希望している。

委員：民間と公的なものとかかなり差はありますか。

事務局：家賃は安いです。

委員：収入が低い人は家賃が安くなり、所得者の方にとっては良いと思います。集約の検討対象となる施設も、補助金をもらって建てている場合は縛りがあるので、縛りがなくなったものから集約していけばよいのではないか。

委員：『地域事情や耐用年数を勘案し』とあるがこの通りだと思います。

委員長：“まとめ”について何かございますか。ライフサイクルコスト縮減一覧は前に書かれていることをまとめられたということですね。

事務局：そうです。

委員：長寿命化による効果が130億となっているがどのように表れてきたのか。何が原因で縮減できたのかという話は出てくるかもしれない。

事務局：計画なので区切りは必要です。今回は平成75年を区切りとしています。長寿命化することによって、平成76年以降に更新する施設については、本計画では更新しないからその効果が130億となっています。その先は大丈夫かということで検討したのが平成100年まで伸ばしたものです。

委員長：最終的には13億が5億に減るということですが、基金も積み立てられるという前提があつてのこと。

委員：概要版について、義務教育施設の欄の“地域に開放”を“地域に共生施設として開放”としてはどうか。公民館の提言の順番について。施設についてということから言えば集約が一番上に来るのではないか。

事務局：ネガティブなイメージは寂しいとのことでしたので、明るいイメージとなる提言を最初にしています。

委員長：概要版と要旨では、義務教育施設が小中学校と変わっているのは市民がわかりやすいように工夫したということで良かったですか。

事務局：はい。

委員長：要旨の“集約する施設によっては”だと集約のみで275億円のコストダウンとなってしまいます。何によって275億円の縮減が可能かをわかりやすくしてもらいたい。

事務局：凡例をもう少し大きくします。

委員：小規模校の集約についてですが、説明がこれだけだと誤解を招く恐れがあるため、

学校名は書かないほうが良いのではないか。

事務局：概要版も同様でよろしいでしょうか。

委員：一緒ですね。本文にはあるがそこまで見てもらえるとありがたい。

委員長：集約のところの具体名が出ている3校の小学校名は削除する。他に出てくる、Lポート、B & G プールとか春里公民館や兼山生き生きプラザが出てきますが、このあたりは大丈夫という判断でよろしいか。

委員：名前を出さなければいけないのか難しいところがあるが。

委員：あくまでも提言書ですので。

事務局：この後に基本計画を作成しますが、そのときには市として書くため配慮は必要となってくると思います。

委員：“図書館、歴史文化施設”のところの福祉センターと郷土歴史館を入れ替えて、『郷土歴史館、福祉センターとの複合を検討』のほうが、郷土歴史館をどうするのかという話になるのではないか。逆に郷土歴史館の複合検討として福祉センターを抜くという案もある。

委員長：少なくとも順番を郷土歴史館、福祉センターとの複合を検討とする。場合によっては福祉センターを除いて郷土歴史館との複合を検討するにしようか。

委員：『図書館の建替えと』に繋がってくるので福祉センターを除いただけでは図書館が郷土歴史館に複合されるイメージになってしまう。

委員：白丸をつけて、『図書館と郷土歴史館の複合検討』としてはどうか。

委員長：『図書館の建替えと民間による運営』で一つ、『図書館、福祉センター、郷土歴史館の複合検討』に分けたほうが分かりやすいという意見ですね。

委員：そうしたときに福祉センターの欄にそれを入れなくてよいのか。

委員：概要版は矢印があるのでそれは分かりやすいと思います。

委員長：重要なことが書いてあるということで全てを書ききっているわけではないし、抜け落ちているものもある。福祉センターの欄ではランク外で、他のところではランク上位だったということで良いのではないか。提案書としては多少訂正していただくということでお願いします。

(事務局より次回提言書提出について説明)

(閉会)